

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2693200012
法人名	医療法人 健和会
事業所名	グループホーム ふれあいの里京田辺
所在地	〒610-0314 京都府京田辺市宮津池ノ内36番地 (電話) 0774-68-1772

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成22年3月24日	評価確定日	平成22年5月13日

【情報提供票より】(平成22年1月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	21 人	常勤 8 人, 非常勤 13 人, 常勤換算	17.7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造
	2階建ての 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有()	〇無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	〇有() 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または 1日あたり 1600円			

(4) 利用者の概要(1月26日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.6歳	最低	76歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田辺中央病院 牧草歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京田辺市のなかでも奈良県に近い宮津にあり、小規模多機能型居宅介護事業所との併設のグループホームである。古くからの住民が大きな家に住んでいる土地柄であるが、地域との関係は良好で見学者やボランティアが来訪し、隣家の火災の際には協力が得られている。職員の退職が続き、態勢が落ち着かない1年であったが、①2事業所の職員兼務をやめる、②利用者の担当制により介護計画の作成を任す、③リーダーや委員会制のなかで仕事を分担していく等の改革により、新しいスタートを切り、みんなでがんばっていくことが話し合われている。現在職員は地域交流を自分なりに工夫したり、利用者との毎日の生活を楽しんでいる様子が見て取れる。利用者は桜餅、柏餅、ちまき、おはぎ、月見団子、ぜんざい、ガレット、ケーキなどのおやつ作りやゴーヤ、朝顔、コスモス、矢車草、野菜等のガーデニングを楽しんでいる。交通量の関係で散歩が困難なことが課題である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の評価において指摘されたことは意義があったと考えている。改善点としては、職員研修の充実、避難訓練の取り組み、重度化対応について利用者や家族と話し合っていること等があげられる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の評価に際して、職員会議で評価の意義を話しているが、自己評価は管理者がまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者、家族、地域住民代表、老人会、民生委員、京田辺市職員、地域包括支援センター職員等がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。記録は全家族に送付している。事業所の運営のみならず、地域の情報や課題など、積極的な意見交換がなされている。提案により民生委員の集まりに事業所の説明をしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からは意見はないが、日常的によく話し合うようにしている。年末のもちつきや夏祭りには数家族が参加しており、その際に家族同士の交流ができています。さらに交流が進み、運営に協力してもらえるようになることが期待される。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、会費を払っており、夏祭りのチラシを観覧してくれている。夏祭りには地域の人が大勢参加してくれた。近くの小学校の運動会に参加したり、小学生がお年寄りに手紙を書く取組で手紙をもらったり、人権の花として水仙の鉢をもらったり、交流がある。老人会の研修として30人くらい見学に来て、落ち着く雰囲気だとの感想ももらっている。ボランティアが踊りを見せにきてくれる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、ホーム独自の理念をつくりあげている	「人との温かいふれあいの心を大切に、日々の福祉サービスに努め、利用者や地域の方々と共に、よりよい地域福祉の実現に寄与する」という法人の理念を、グループホームでも理念とし、それを踏まえた方針を策定している。家族には説明し、運営推進会議でも啓発を図っている。グループホーム独自の理念を策定する予定である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は法人の理念を自分の業務で具体化したいと、それぞれが取り組んでおり、利用者の話にじっくり耳を傾けたり、地域との交流に取り組んだりしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい ホームは孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、会費を払っており、夏祭りのチラシを回覧してくれている。夏祭りには地域の人が大勢参加してくれた。近くの小学校の運動会に参加したり、小学生がお年寄りに手紙を書く取組で手紙をもらったり、人権の花として水仙の鉢をもらったり、交流がある。老人会の研修として30人くらい見学に来て、落ち着く雰囲気などの感想をもらっている。ボランティアが踊りを見せにきてくれる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価に際して、職員会議で評価の意義を話しているが、自己評価は管理者がまとめている。昨年の評価において指摘されたことは意義があったと考えている。改善点としては、職員研修の充実、避難訓練の取り組み、重度化対応について利用者や家族と話し合っていること等があげられる。	○	評価はできていないところを指摘することが目的ではなく、管理者初め職員に気付きを促すために実施されるものである。サービスの質の向上を図るために、評価項目を職員一人ひとりが理解し、認識することが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域住民代表、老人会、民生委員、京田辺市職員、地域包括支援センター職員等がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。記録は全家族に送付している。事業所の運営のみならず、地域の情報や課題など、積極的な意見交換がなされている。提案により民生委員の集まりに事業所の説明をしている。		

京都府:グループホームふれあいの里京田辺

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 ホームは、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	京田辺市内の地域密着型事業所連絡会を立ち上げており、3つの事業所が参加し、隔月に例会をもち、市の担当者と地域包括支援センターの職員が参加している。認知症サポーター研修の際に講師を務めている。		
4.理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 ホームでの利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は多く、毎週くらい来る人から、少なくとも隔月には来られているので、その際に情報交換している。広報誌やおたよりは出していない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは意見はないが、日常的によく話し合うようにしている。年末のもちちつきや夏祭りには数家族が参加しており、その際に家族同士の交流ができています。さらに交流が進み、運営に協力してもらえようになることが期待される。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人としての異動はないものの、この1年は職員の退職が続き、利用者の新しい職員に対する緊張への対応のため、新任職員への認知症理解をはかることに努力が続いている。懇親会などを開催し、職員の和を図るようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は受講者が伝達研修し、フォローアップを図っている。事業所内の勉強会は職員から希望のテーマをつくり、教育委員が企画し、認知症、医療の知識、リハビリ、感染症、緊急時対応、遊びリレーション、口腔ケア、福祉用具などのテーマで毎月実施している。職員個人の目標は「達成すべきゴール」と「具体的な実施計画」を職員が書き、上司と話し合っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京田辺市内の3事業所でグループホーム協議会を結成し、隔月に開催し、情報交換している。場所が持ち回りなので、他のホームを見ることもできる。京田辺市の担当者も参加している。職員はこの会には参加していない。	○	職員が他のグループホームを見学したり、職員同士の交流をしたり、交換研修することは、大きな学びになるので、実施することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の前には利用者や家族に見学に来てもらっている。入居してからは、利用者が家に電話をかけたい、家に帰りたい等の希望がでたときには電話の取次ぎをしている。なるべく早く利用者と職員の間関係をつくるように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者には多くのことを教えてもらえる関係だと思っている。昨年ターミナルを迎えた利用者は入院したくないと思っているが迷惑をかけたくないと入院し、亡くなられた。利用者、職員、村の人などとお別れに行き、きれいな顔だったので、感動した。「死」というものを教えてもらった気がする。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族との面接により、現在のADL、医療情報、介護サービス利用情報、家族構成、生活習慣、好きなこと、性格、生活歴など、情報を把握し、記録に残している。3人の子どもを育てながら実母の世話をした、手工芸の趣味、旅行が好き、お酒やホットコーヒーが好き、友達をつくりたい等々、利用者を彷彿とさせる情報が記録されている。	○	認知症の利用者が現在忘れていても、体が覚えていることや好きで夢中になったことは、適切な支援により、利用者の生活を豊かにし、認知症の進行を遅らせる効果があるので、利用者のすべてについて生活歴の情報を丁寧に聴き取り、追加情報も記録しておくことが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	収集した情報を基に入居時には暫定の介護計画をつくり、2週間後に確定している。介護計画作成にあたり、サービス担当者会議を開催し、職員が参加し、意見を述べている。介護計画は利用者ごとに個別で、具体的であり、「楽しみながらする家事」など、生活の楽しみも入っている。さらに、生活歴から探った支援が入ることが期待される。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の利用者の支援経過記録は介護計画の項目に沿って書いているものの利用者の行動記録が中心であり、介護の拒否などの際の考察が書かれていない。介護計画のモニタリングは項目にそって実施され、見直しの際の再アセスメントが実施されている。	○	利用者の経過記録は介護計画の項目に沿って記述し、介護を実施したかどうか、その際の利用者の表情や発言、介護拒否があったときの考察などを記録に残し、モニタリングの根拠とすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性と生かした柔軟な支援(ホーム及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○ホームの多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎月訪問美容がきてくれており、カット、パーマ、カラー等を利用者は利用している。地域資源の利用はスーパーに買い物に行くぐらいである。併設の小規模多機能型居宅介護事業所とは行事を一緒にしたり、職員研修を共に実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医とホームの関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医への受診は家族が同行しており、管理者や看護師が同行する場合もある。ホームで把握している情報は医師宛に手紙を書いている。医師からの情報も把握している。歯科医は往診してくれる。認知症専門医は法人の病院にいる医師に相談している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	明文化はできていないものの、当グループホームでできることとできないことをいねいに説明し、利用者や家族の意向を確認している。「ここにいたい」と言っている利用者があり、また「延命はしたくない」といっている家族が多い。今後はホームとしての方針を明文化することが期待される。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室はなかから鍵をかけることができ、かける人もいる。トイレも同様である。トイレ誘導などの声かけは十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の起床は5時に起きる人や8時まで寝ている人などあり、就寝時間も夕食後すぐに寝る人から、11時までホールにいる人までいろいろである。食事も「いま食べたくない」という利用者には無理強いせず、食べたくないのを待っている。出かけたがたい、風呂に入りたい等の声があったときに支援している。		

京都府：グループホームふれあいの里京田辺

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材配達会社から献立、レシピ。出来上がりのカラー写真とともに配達されてくる食材を利用し、野菜を切ったり、豆の皮むきをしたりする利用者とともに職員が調理している。洗った食器を拭くのは利用者の役割である。毎週1回は利用者の既望を聞いて献立を立て、つくっている。おやつ作りは毎日のように取り組んでおり、利用者には好評である。職員も一緒に食べながら、会話が弾んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回を目標に支援しているが、毎日入りたい利用者には毎日の入浴を支援しており、時間帯も午前も午後も、入りたいという声があったときに支援している。入浴拒否の利用者が夜間帯に声をかけると入る場合があり、夜勤者が支援している。マンツーマンの同性介助である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の家事の他、行事の際のあいさつ、朝刊の取り入れなど、利用者は役割を果たしている。お手玉、ボール投げ、体操、たし残ゲーム、言葉クイズ、習字、手芸、うた、ピンポン、しりとり、カレンダー作り等、楽しみが浩である。おはぎ作りやケーキ作りなどのおやつ作りも大きな楽しみである。ボランティアのおどりの会の踊りを見るのも、楽しみにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 ホームの中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	グループホームの前の通りは車の往来が激しく、歩いで散歩や買い物はできず、ドライブでかけている。お弁当をもって不動川公園へ春の遠足、青谷梅林への梅見、コンサートを聞きに行く、普源寺での蛍見物、いちご狩り、あじさい見物、初詣など、季節のおでかけをしている。お誕生日外出として、住んでいた家を見に行ったり、買いたいものをスーパーへ買い物に行ったり、外食に出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉、2カ所の玄関ドア、エレベーター等、すべて施錠されていない。2階からの非常階段へのドアは、利用者への安全性に配慮して、ついたてをたて、施錠し、職員が常に鍵を携帯している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器、通報機、感知器、スプリンクラー、防火管理者等を備え、消防計画により避難訓練を実施している。避難訓練には消防署、市の担当職員、地域包括支援センター職員の参加もあり、夜間想定も実施している。火災などの際には近隣住民に協力をお願いしており、隣家の火災のときには応援にかけつけてもらった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は食材配達会社がレシピ、カラー写真、カロリー値、栄養バランス等の情報とともに配達してくるものを利用している。利用者の食事摂取量と水分摂取量の記録が残されていない。	○	利用者の体調管理には食事摂取量と水分摂取量の点検はかかせないので、記録に残すことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車の往来に激しい道路から奥まったところにあり、玄関に木製の表札、門扉には花の鉢を掛け、敷地内に花や野菜を植えている。エレベーターを出ると廊下の両側に居室が並ぶ。ゆったりとした居間は大きな窓から見晴らしが良く、明るい。いくつかのソファの上にぬいぐるみを置いている。観葉植物の鉢を置き、壁には花の水彩画、ひまわりの油絵、すだれに利用者の行事の写真をレイアウトしてかかっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼットと洗面台が備え付けられ、ベッド、椅子、テレビ、時計等、利用者が使い慣れたものを持ち込んでいる。ポータブルトイレはきれいな布で覆い、プライバシーを守ると同時に室内をやわらかい雰囲気になっている。佛壇をおいてお水をあげている人、大きなぬいぐるみを一杯はべらせている人、かわいい人形に凝っている人、きれいな花の鉢をおいて水遣りを楽しみにしている人、本や雑誌を読んでいる人など、利用者の個性がうかがえる。		